

科目名称：	社会と美術論		
担当者名：	本山 二郎		
区分	授業形態	単位数	
専門教育科目	講義	2	
授業の目的・テーマ			
美術は、いつの時代も社会と密接に関わり成り立っている。現代において美術は、地域活性化、医療セラピーなど実に多彩な使命を担い、疲弊した社会を変えてゆく効果が期待される。また、著作権・人権問題など、インターネット環境の拡充に伴い、現代社会が抱える問題にも深く関わっている。 本講義では、美術と社会の多様な関わりを学び、社会においてどのような意義を持ち得るのかを自覚する機会とする。同時に、美術表現の可能性を探る研究機会とする。			
授業の達成目標・到達目標			
それぞれの時代に美術が社会と密接に関わりを持って果たしてきた役割を理解し、そこから現代において美術がいかに社会と結びつき貢献できるか、美術を通して広いビジョンを持ちうることを目標とする。			

基礎教育科目		ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し他者との信頼関係を築いていくことができる。		
DP(2)	様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。		
DP(3)	専門的な知識や技能を修得し、それぞれの分野において、これらを柔軟に活用していくことができる。		○

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP(1)					0
全学DP(2)					0
全学DP(3)			100		100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》
備考		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
授業への参加	授業を理解してポイントを書き込み、要点を整理している	授業を理解してポイントとなる点を資料にチェックしている	授業の内容を理解し、資料を確認できている	授業に集中せず、資料の内容を理解していない
授業内レポートへの取り組み	内容を整理、広い見地から自己の課題として考察し意見をまとめる	内容を整理し、自己の課題として捉え意見を述べるができる	内容を整理し、感想を述べるができる	内容が理解できず、意見がまとまらない
課題レポートへの取り組み	公共的な視点を踏まえテーマを明確にし自己の意見をまとめる	テーマを明確にし、自己の視点と意見をまとめる	テーマを明確にし、調べてまとめることができる	他者の意見をまとめたものを単に写し、自己の視点がない

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第1回 社会と美術の関わり（授業ダイジェスト）	事前にシラバスをよく読み、本講義の趣旨を理解しておくこと	20分
第2回 色彩をつかいこなす	事後に自分の作品への応用を模索し、色彩を使いこなす力を定着させる	60分
第3回 視覚効果に秘める情報伝達の力	画面構成力を深めるため、事後に自分の作品制作への応用方法を模索する	60分
第4回 視覚効果と色彩効果	事後に視覚効果の例を調べ、視覚効果の可能性に理解を深める	40分
第5回 美術館のあゆみ ～金沢21世紀美術館にみる街にひらかれたアート。街を活性化させる美術館の役割。	事後課題として、美術館の特性・機能・社会への関わりを調べる	60分
第6回 社会が美術にできること①～歴史的視点から～メダチ家のパトロネージ、加賀藩の文化奨励など	事後課題として、社会が美術を支えたパトロネージ実践例を調べて理解を深める	60分
第7回 社会が美術にできること②～企業メセナと公募展の現在	事後課題として、社会が美術を支えたメセナ実践例を調べて理解を深める	60分
第8回 美術が地域社会に働きかける①～参加型アートイベントの現在：世界の取り組み（ベネチアビエンナーレほか）	事後課題として、参加型アートイベントの具体例から社会への貢献を調べる	60分
第9回 美術が地域社会に働きかける②～参加型アートイベントの現在：国内の取り組み（直島、越後妻有ビエンナーレ他）	事後課題として、参加型アートイベントの具体例から社会への貢献を調べる	60分
第10回 美術が地域社会に働きかける③～招聘作家の視点から	事後課題として、美術展招聘作家を調べ、制作と表現の関わりを考察する	60分
第11回 美術とタブー①（オリジナルと贋作）	事後課題として、著作権侵害の事例を調べ、表現に潜む危険性を考察し理解する	60分
第12回 美術とタブー②（形が表すサイン、表現のモラル）	事後課題として、表現モラルの事例を調べ、表現に潜む危険性を考察し理解する	60分
第13回 社会現象化するアート	事後活動として、アートの取り組みが社会に影響を及ぼす例をあげ考察する	60分
第14回 Artの発信力（色彩のPower）	事後活動として、アートによって社会に活力を与える例をあげ考察する	60分
第15回 自分たちができる美術と社会のつながりを考える（グループワークによる課題研究）	事前にアートが地域社会に貢献できる取り組みを考えておく	60分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までに課題を調べてレポートにまとめ、理解を深めておくこと。

成績評価の方法・基準
定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
授業時に提出するプリント20％、レポート課題80％
課題に対してのフィードバック
授業内のプリント提出およびレポート課題は、毎回実施する。課題は、評価を行ったうえで次回の講義冒頭に返却し、課題を振り返ることで理解の定着をはかり、問題意識を明確にして自身の考えを深める。
教科書・参考書
教科書は使用しない。基本的にパワーポイントによる視覚資料によって授業を展開する。また、毎回の授業毎にプリントを配布する。